

# 學 會

## 第5回石山外科開講記念會學術講演會

(抄 録)

時 昭和14年1月15日

所 岡山醫科大學第1講堂

### 1. 術後急性肺虚脱症例追加

武 内 成 之(教室)

最近定型的なる急性肺虚脱症の1例を経験せるを以て追加せんとす。患者は正本某、39歳の榮養佳良なる中等大の女。初診、昭和13年12月6日。家族歴、既往症には特記すべきもの無し。主訴は廻首部の疼痛にして、急性蟲様突起炎の診断の下に同日直ちに早期手術を施行す。術後経過良好なりしも8日即ち術後約43時間にて突如39度の發熱を伴ひ、呼吸困難を惹起し、口唇に「チアノーゼ」を呈し、左胸部の疼痛を訴へ、頭部を左方に向け、約30分間意識不明に陥れり。又左胸壁の呼吸運動全く制限せられ、打診上左肺全體濁音を呈し、心尖搏動は上左方に轉位し、聴診上呼吸音は殆ど聴取し得ず。左側肺臓のレ線像は肺虚脱の所見を有し、「フノイモグラフ」は呼吸曲線の縮小を認め、且胸腔内陰壓の増強を見たり。以上により急性肺虚脱なることを確定し、直ちに體位變換、強心剤の注射を行へり。然るに約3時間後患者は粘濁なる帶青色痰を喀出して、胸痛は稍々消失したれども呼吸困難尙ほ繼續せり。再びレ線寫眞を撮影せるに、發作時と略ぼ同様なれど心臓の右縁は右方に寄り、將に原狀に復さんとせる所見を呈す。翌9日即ち發作後24時間には全く下熱し、呼吸困難も消失し、胸部所見も殆ど著變無く、レ線像及び「フノイモグラフ」は正常に復し、肺虚脱は治癒せり。其の後蟲様突起切除の経過順調にして、手術創も第1期癒合を營み、全治退院せり。

余の症例は39歳の女にして、蟲様突起切除後約43時間にて左肺に發生したる定型的肺虚脱にして、體位變換と強心法等により濃厚なる喀痰の排出に成功し危期を脱せる1例なり。

### 1の追加 上 村 良 一

石井某、22歳。病名、慢性蟲様突起炎。局所麻酔による蟲垂切除後36時間目に右側牽引痛を訴へ、呼吸困難も著しく、冷汗甚しく、患者は苦悶す。強心剤、酸素吸入をなせり。胸部は打診上心臓音は1横指徑右側に偏在し右側下部呼吸音を聞き得ず。肺門部に於ては呻軋音、吹笛音を聞き、左側は之に反し呼吸音尖鋭なり。15時間後よりは粘濁なる青味を帯びたる濃厚なる痰を喀出し、翌日は心肺は平常に復したり。一過型急性肺虚脱と思惟す。

### 1の追加 石 山 教 授

此症例の際にはレントゲン寫眞が大切でありますから是非撮影さる様望みます。レントゲン寫眞は12時間位迄は後れて撮られても役に立ちます。

### 2. 外傷性及び術後精神障碍症例

和 田 進(教室)

外傷に因つて起る精神障碍には、腦の器質的變化に因るものと、外傷の際乃至其の後の精神的影響所謂精神的外傷に因る官能性精神障碍即ち心因

性精神病の2種あり。其の内後者に屬する外傷性神經症の1例を経験せり。本症は1886年英醫 ユクフゼン が最初に著眼せるものにして、以來論争の結果其の本態は要求的觀念に基因するものなる事を承認されたり。即ち、患者は21歳の男子にして、造船所職工なり。工作中頭部に丸木棒落下受傷し、意識混濁あり、間もなく傷は全治、意識も明確となりたるも、以來頭痛、興奮發作あり、發作時には譫妄、不穩動作あり。検査するに何等器質的變化を腦に認めず、よつて1人部屋に隔離して、只姑息的療法のみにて全治に向ひつつある1例なり。術後精神障礙は1916年 Kleist が之に關する「モノグラフ」を發表して以來漸く學會の注目を惹く所となりたり。然れども之に關する文獻尠く、本邦に於ても精神病醫の問題となる事尠く、外科的方面に於ても餘り研究を見ず。豫後は文獻に依れば良好なれど、臨牀上重要な問題たと共に、報告例の寡少なるを以て1症例を追加す。患者は14歳の男子、小學生。急性蟲媒突起炎手術後2日目より Amentia の状態を呈したるものにして、本症を呈してより11日後に正常に復せり。之は入學準備による精神肉體の過勞の上に手術なる大きな誘因が加はりたるものにて、短時日に治癒したる1例なり。

## 2の追加 上村良一(玉造船)

宮本某、31歳。男工。頭部外傷後頭痛、眩暈を訴へ。腰椎穿刺竝に脊髄腔内空氣注入をなすに一時輕快し居れるも症狀繼續するを以て「エンチエフアログラフイー」を行はんとせしに患者が其の目的を開きたるを以て、次で穿顱術をなすと答へたる所、「エンチエフアログラフイー」後は輕快せりとして退院せり。其の後他方面よりの報告によると、患者は文盲にして仕事上の指示の文字が判らざる爲め此如き主訴を以て休業せしものなり。外傷性神經症様主訴をなすものには診斷は熟慮を要すべし。

## 2の追加 石山教授

外傷性及び術後精神障礙は我々の見る所では病人に多い。殊に動脈硬化症の患者にては小さな外傷又は小さな手術にては相當に強く現はれる。亦此症例は Potator にもよく見られる。精神障礙症が患者の假病であるか、眞實のものであるか否かは精神科にても判別が出来ない様であり。之が治療としては Mundtherapie のみである。労働時間、労働賃金等に關聯して工場法が次第に難かしくなつて來ると益々斯る患者が増加して來るのではないかと思はれる。斯る患者の多い方面に活動せらるる人は注意を要することと思ふ。曾て製鐵所病院の植村博士は斯る主訴の患者に試験的穿顱術を施行する事を宣言し學界の注目を惹いた事がある。

## 3. 「ヂフテリー」後の左側上下肢麻痺に施したる ストツフェル氏手術 に就て

青山勉(教室)

14歳の男子。主訴は左側上下肢の運動障礙。現症は約8年前咽喉「ヂフテリー」に罹り、約2週間の醫療の結果症狀輕快せしが、其の後2—3日して嚥下困難及び心臓衰弱を惹起し、且左側上下肢の運動障礙を招來せしを以て醫療を受くること約1箇月にして一般状態は恢復せしも、左側上下肢の麻痺は輕快することなく年と共に著明となり現在に至れり。一般状態は良好にして智力も普通。局所所見は左側上肢は肘關節に於て稍々内轉屈曲し、左側下肢は尖足にして上、下肢共に輕度の筋萎縮あり。患側の上下肢は自動的には總ての運動困難なるも、他動的には抵抗はあれども何れの運動も可能にして、且隨反射は何れも著しく亢進せるも、知覺は正常なり。斯くの如き左側上下肢に對し ストツフェル氏手術 を3回に互り施行、即ち第1回は脛骨神經の腓腸筋に至る分枝5本を切除第2回は肘關節に於て正中神經の分枝4本、橈骨神經の分枝2本を切除、第3回は上膊部に於て筋

皮神経及び内前腓皮神経を切除せし所、左側下肢は1回の手術により健康側と殆ど異なることなき迄に恢復し、上肢は2回の手術により著しく輕快せるも手術後日尚ほ浅きため健康側の如き圓滑なる運動をなし得ざるも、理學的療法の併用により正常に近きまでに恢復し得るものと信ず。本症例の如く麻痺發現後8箇年を経過し「デフテリー」後麻痺に對する諸種の療法の無効となりたるものに對しストツフェル氏手術を試む可き有效なる一方なりと思惟す。

#### 4. 膽石症の69例に就て

瀧 讓(教室)

昭和6年より昭和12年に至る7箇年間の我が石山外科教室に於ける膽石症69例に就ての觀察を述べる。年齢及び性別との關係。年齢は30—50代に最も多く、性別は外國と反對に男子に多い。職業との關係。職業としては労働者に少なく、坐業者に多く多發する。症狀。症狀としては疼痛は98.5%に、發熱は76.8%に、黄疸は52.1%に現はる。而して黄疸は總輸膽結石に於ては72.7%に現はれ、膽囊結石に於ては36.3%にあらはれる。胃液酸度との關係。遊離鹽酸を缺乏せるもの52%低下せるもの96%を示す。結石の種類。結石としては膽色素結石が最も多く、「コレステリン」結石は遙に少なし、手術術式別。手術術式としては膽囊剝出術を施せるもの65.4%、膽囊剝出術及び總輸膽管切開術を施せるもの32.3%、膽囊造瘻術を施せるもの2.3%を示す。死亡率。10%を示す。治癒率。全治せるもの88.7%を示す。

#### 5. 胃及び十二指腸潰瘍37例に就て

南 波 晋(教室)

昭和9年4月より13年12月迄滿4年9月間石山外科教室に於ける胃及び十二指腸潰瘍37例に就ての觀察を述べる。I. 潰瘍の位置は胃24、十二指腸7、胃及び十二指腸兩部に互たるもの6例

なり。II. 上腹部自然痛最大で93%疼痛の食事との時間的關係により胃、十二指腸潰瘍の區別は難事なり。膨滿感、噯氣、嘔吐は約半数に見、嘔吐は57%に見、殊に狹窄を有するものに多く、吐血は反對に小彎部潰瘍を有するものに多く全数の29%に相當す。局所症狀として壓痛7%、抵抗は39%、潛血反應陽性34%に見た。III. 性別は男31人、女6人なり。IV. 手術年齢最低24歳、最高63歳で30歳より59歳迄が90%を占める。V. 發病より手術を受ける迄の期間は1年以内22.7%、5年以内29.5%、10年以内20.5%、20年以内20.5%なり。VI. 胃酸度は之により潰瘍と癒との鑑別診斷に直ちに用ひることは出来ない。VII. 37例中胃に手術的裝作を加へる必要を認めざる1例を除き、即ち36例中手術が直接死の原因と考へられるもの1例、全治31例、快方4例、未治1例なり。

#### 5の追加 坂井芳次郎(富山)

42歳の男子に於ける陳舊性十二指腸潰瘍の爲殆ど通過なしと云ふ高度のものに於て、而も手術後不幸の轉歸をとりしも、術前全く意識不明なりしものが、術後少時意識を恢復せるを報告し、早期手術の適切有效なるべきを云へり。

#### 6. 石山外科教室に於ける直腸癌36例

に就て 木村敏三(教室)

最近5年間に石山外科に於て入院加療せる直腸癌患者36名に就て次の觀察を試みたり。直腸癌は腸管癌腫の過半数を占め位置に就ては直腸蟻狀部癌26例(76.4%)にして最も多く、直腸壁に於ける腫瘍の部位は環狀に位するもの13例(36.1%)にして最も多し。所謂癌腫年齢40—60歳に頻發し、22例ありて過半数(61.1%)を占め、男女の比は男子21例、女子15例にして女子1に對し男子1.4に相當す。既往症に痔疾を患ひしもの6例(16.6%)あり、癌腫遺傳を調査せしに7例の

家系に其の素因を認めたり。又血液型の記載ある31例に就て見るにA型=41.9%, B型=19.6%, AB型=2.2%, O型=35.4%にしてA型は健康人血型比率のA型に比しかなり高率にあり。自覺症候を訴へ初めてより入院する迄の日数は1—6箇月のもの17例(47.2%)なり。自覺症候は下血及び便秘細小の狭窄症候並に潰瘍症候最も多しと雖も「イレウス」症候にて来院せるもの3例あり。組織學的所見の記載しある22例を分類するに腺癌19例、髓様癌2例、扁平上皮癌1例にして腺癌大多數を占む。36名中根治手術を行ひたるは23例にすぎず。9例に人工肛門を造設し、残り4例は無手術にて退院せり。術式はクラスケ氏法19例(中死亡4例)、合併法3例(中死亡1例)、ホヘネツグ氏法1例(死亡)にして、手術後の経過は直接死亡の1例を除き健康に生存中のもの15例にして3年以上再発なきもの3%に相當す。

#### 6の追加 藤河武雄( 奥 )

75歳の男子。數年來毎冬季には痔疾に苦しみ、其の度に主治醫に坐薬を貰つて居た。最後の年は例年に比し頑固にして治癒せず。此處に直腸癌の疑問を抱き検査の結果直腸癌と判明、極めて初期に根治手術を行ひ永久治癒を得たり。之と反對に老人の痔疾を外科醫が治療の経過中癌變性を氣付かず其の手術の時期を失する場合がある。之は長い同一患者の治療に慣れて其の都度指頭診断を行はない爲による。

#### 7. 急性腹膜炎の文獻的考察

西村 穂一郎(教室)

演者は先づ如何なる療法に於ても殊に急性腹膜炎の如き場合に於ては、特に生體の自然治癒力を主眼となすべきものなりと述べ、此時に當り恩師石山教授の命により急性腹膜炎に於ける從來の療法は其の原因に適應せる方法の意外に尠く、是に對し實驗に立脚して其の統制を試みんとし、其の

段階として先づ本症に對して文獻的觀察をなせり。而して先づ其の治療方針の決定の爲に本症の病體生理を明かにするを要すべく、今回は特に之等に就き簡略に述べたり。即ち急性腹膜炎の死因に關しては古くより研究せられ其の所説又種々輻轉するも、是を類別せば略ぼ以下の如し。腹腔内滲出液内毒素吸收による中毒並に敗血症説、麻痺腸管内毒素產生による中毒説、血管運動中樞麻痺説、植物神經系障礙説、特殊細菌説、蛋白喪失説、胃腸管内有毒瓦斯中毒説、脱水説、神經反射説等なり。之等の中最も多くの學者により支持されるものは腹腔内滲出液の所謂毒素の吸收及び腸麻痺による腸内有毒分解物質の吸收による中毒説にして、殊に本症治療上の興味を中心たる腸運動障礙或は是に續發する血行障礙に對しては、從來血管運動中樞障礙説最も有力なりしが、現今に於ては専ら末梢性麻痺説に代りつつあるは一般の認むる處なり。尙ほ所謂腹膜炎毒素の本態に就ては今尙ほ論争の中心なるも、恐らく「ヒスタミン」或は「ヒスタミン」様物質ならんと思考せる點多し、尙ほ之等毒物による中毒を主なりとせば、所詮是に與かる主臟器たる肝腎機能障礙も又重大なる意義あるは論を要せざる處なり。加ふるに體内水分缺乏、蛋白喪失或は胃腸管内有毒瓦斯吸收等による種々なる因子の綜合的影響も又重大にして閉却すべからざるものなりと信ず。

#### 8. 肺合併症時に於ける靜脈壓及び動脈壓と筋緊張との關係に關する實驗的

研究 三宅喜四郎(教室)

肺合併症時に於ては靜脈壓及び動脈壓に種々興味ある現象を生ず、而して之等血壓の變化に伴ひ、更に肺合併症時に於て筋緊張の變化が現出す、而して之等變化を惹起する原因的要素に就ては種々あるも、之は割愛し、尙ほ各合併症時の血壓及び筋緊張の關係を説明することは略し、茲には肺合併症としての急性肺虚脱を家兎に惹起せし際の靜、

動脈壓及び筋壓入度を極く簡単に概念のみを説明す。急性肺虚脱惹起後1時間目に至れば、惹起前の状態と異り静脈壓は漸次上昇を、動脈壓は反対に下降の傾向を始む。3時間日には静脈壓は益々上昇し、動脈壓は著しき下降を來し、前者は1時間目の價の約2倍後者は約半分となる。5時間目にて兩血壓の高さが略ぼ同程度となり、6時間目にては3時間目の場合と全く反対の状態を示すに至る。1日目には動脈壓は遙かに低下して正常値に近づくも静脈壓は依然として低下せる状態に止る。3日目にては静脈壓は大した變化なきも、動脈壓は更に著しき低下を來し5日目に至れば兩者共互に漸次上昇を始め7日目には兩者共殆ど正常値に復歸す。筋壓入度も急性肺虚脱惹起家兎に於ては、惹起後1時間にては惹起前と殆ど變化なきも、3時間目には明かに筋壓入度の増加を示す。5時間目、6時間目共に前壓入度と大差なく、殆ど増加を見ざるも、1日目には更に筋壓入度の増加を來す。尚ほ3日目は大した變化なきも、5日目に到れば筋壓入度は明かに減少を來し、7日目にては殆ど完全に惹起(肺虚脱)前の値に復すを知れり。之を要するに血壓に於ては肺虚脱惹起後3時間に於て最も變化大にして、筋緊張に於ては惹起後24時間目に最も變化大なるを知る。

### 9. 迷走神経中樞核部損傷による實驗的肺虚脱成生に就て

松下 正(教室)

余は従來の術後急性肺虚脱の原因を攻究し神経機轉により實驗的肺虚脱成生を企圖し迷走神経中樞核部の損傷によりて之に成功せり。而も本實驗に於て興味あるは迷走神経中樞核部損傷後多くは損傷側と同側肺臟に虚脱像を呈する事實なり。尚ほ其の成生機轉につき攻究するに迷走神経中樞核部損傷は同部に刺戟となり之は迷走神経によりて持續的に小氣管枝の收縮を來し遂に其の末梢部に於て肺臟の縮小を來し肺虚脱を惹起するに至るな

らんと思考せらる。

### 9の質問 石山 教授

迷走神経中樞核部を「アセチルヒヨリン」にて刺戟する方法如何。

### 9の質問の答 松下 正

迷走神経中樞核部を先づ針尖にて刺傷し其の前後に於ける左右呼吸曲線及び血壓を觀察するに單に針尖にて刺戟せし時は其の刺戟せし瞬間の變化のみにて其の前後に著しき變化を來さざることを確め次に其の針尖に1%「アセチルヒヨリン」を塗布し之を以て同様の方法にて刺戟するに其の前後の呼吸曲線に著しき變化を來せり。即ち迷走神経中樞核部刺戟側の呼吸曲線は反対側に比し著しき増大を來したり。本事實は迷走神経中樞核部の刺戟により刺戟側と同様の肺臟により著しき變化を齎したることを示すものなり。

### 10. 急性腸閉塞症の電気心働圖に及ぼす

影響 高尾 秀一(教室)

家兎を用ひ實驗的に急性腸閉塞症を惹起せしめ心臓に及ぼす刻々の變化を電気心働圖に依り記録し興味ある成績を得たり。即ち第1群は十二指腸部閉塞、第2群は迴腸末端部、第3群はS字狀結腸部閉塞、第4群は單開腹のみを行ひ對照とせり。第1群に於てはTの減少及び逆向STの下降等心筋障最も著しく、第3群之に次ぎTの減少STの下降及び脚分離等の刺戟傳導障現はる、第2群は心筋に及ぼす影響輕度にして、第4群に於ては全然障を認めざりき。又閉塞せる3群に於て共通に見らるるはR<sub>1</sub>大、R<sub>3</sub>小となる傾向にして、對照實驗に於ては反対にR<sub>1</sub>小、R<sub>3</sub>大となる、之腸管内容の鬱滯、膨滿すると空虚なるにより横隔膜上位となり或は低下し、其の爲の心臓偏位に基くものと解さる(2, 3臨牀例と共に各曲線供覽)。

## 11. 腹腔内物理的刺戟の横隔膜「トーマス」に及ぼす影響に就て

中村善亮(教室)

家兎を用ひて「ウレタン麻酔」下にヘツド氏の方法に依て横隔膜「トーマス」の變化を描寫せしめつつ腹腔内諸部分に熱及び電気刺戟を加へて横隔膜「トーマス」に及ぼす影響を検せり。其の結果次の如し即ち先づ冷刺戟に對しては横隔膜の「レスト・トーマス」は徐々に上昇し且其の運動振幅は大となる。次に温刺戟に對しては「レスト・トーマス」は下降し運動振幅は狭小となる。電気刺戟を加へたる場合には腹腔内の部位に依て横隔膜「トーマス」に對する反應強度を異す即ち横隔膜其の自身に刺戟を加へたる場合の反應最も強く内臟神經幹の刺戟の場合之に次ぎ胃殊に腸漿膜刺戟に對しては横隔膜「トーマス」刺戟に對する反應輕度なり。之等の結果を綜合するに治療等の目的を以て腹腔内に物理的刺戟を加へたる場合及び腹腔内急性炎衝の存するとき其の炎衝の物理的刺戟要素を假定し得るとせば横隔膜「トーマス」に如何なる影響を及ぼすやを略ぼ推定し得べし。

## 12. 氣管枝喘息手術の統計的觀察

菊池岩雄(教室)

我が教室に於ける最近5箇年間に診療せる59名の氣管枝喘息患者の統計的觀察をなすに男40名、女19名。發病年齢を見るに患者の半數は20歳までに既に發病し、女子にては生殖腺機能に關聯するを知る。遺傳患者は59名中14例に之を見た。喘息の發病竝に發作の發現には氣管枝炎、百日咳、肺炎、感冒等の氣道に於ける炎症疾患が重大なる役割を演ずるものなるを知る。1日に於ける發作の好發時間は殆ど全部に於て夜間にして、季節にては秋より冬にかけて好發する。植物性神経系機能状態を検するに54.5%は迷走神経緊張型であり、交感神経緊張型は見られない。之を遺傳患者に就て見るに迷走神経緊張型は71.4%となり、全

植物性神経系緊張型を合すれば92.8%に達する。氣道に於ける比較的重篤な炎症性疾患の既往症を有する者に發病時及び診察時の状態を考慮し、之を「カタル性喘息」とし、然らざるものを痙攣性喘息に分類した。遺傳喘息患者の大多數は痙攣性喘息に屬する。48例の手術患者の遠隔成績を検討し、併せて如何なる患者に如何なる手術方法を用ひて好結果を収めたるか、喘息の型類、植物性神経系の状態、肺氣腫の有無、「ブノイモグラフ」、呼吸困難の型類等及び手術術式を検討して手術適應決定に對する一考察を試みた。

正午休憩し、午後1時、故泉教授の7回忌、芥川博士の3回忌につき一同安置せる寫眞に最敬禮、黙禱を捧ぐ。更に出征記念會員20氏の武運長久を祈願して午後の演説に移る。

## 13. 持續的膽汁瘻の副腎に及ぼす影響

北山三郎(教室)

犬に膽汁瘻を裝置して其の副腎に及ぼす影響に關して觀察を試みたり。方法は右腎摘出後其の側の輸尿管と輸膽管を吻合せしむ。副腎は時日の經過と共に其の大きさを増大す。顯微鏡的所見は皮質部の最も多量に脂肪物質を含有せる束狀層が次第に脂肪の含有度を減少し遂には絲絨層よりも却て含有度の減弱を示す。夫れに比して程度小なるも絲絨層網狀層も脂肪滴含有量を減少す。一方束狀層、絲絨層は其の厚さを増加し殊に前者は著明にして副腎の肉眼的増大を證明する像を呈す。夫れと共に之等層中の細胞體は異常に大きさを増大し大なる空胞を多數に含有し特に束狀層著し。尙ほ時日の經過に伴ひ束狀層の幅更に大となり絲絨層は壓せられ却て正常よりは幅を減少す。網狀層は殆ど其の幅を變ぜざるも遂には壓迫の爲め其の厚さを減ず。髓質實質細胞は次第に大きさを膨大し「クローム」顆粒又減弱の度を増し爲に細胞は透明となれり。更に核も多少大きさを増大し「クロマチン」染色度減少す。外に血管の擴大を認む。

13の質問 榊原 亨

この實驗に於て犬が膽汁を嘗める事は無いですか。

答 北山 三郎

實驗方法に就て説明が足りなかつたかも知れませんが尿と共に排泄せしめてあるので嘗める事は先づ有りません。然し装置後當分又は夏期には渴を訴へる關係上飲む事があります。故に常に水を與へてゐます。

14. 副甲状腺移植時に於ける骨折の意義

織田 元一郎(教室)

余は先に家兎上皮小體の自家移植を、皮下脾臓筋肉、骨髓等に行ひ、之等移植母地の異なるに従ひ、其の成績に多少の相違を來すも、理論上自家移植は總て成功すべきものなる事を明かにしたり。又上皮小體同種移植を皮下に行ふに、同種移植に於ては、一旦上皮小體細胞の増殖を來すも、總て淋巴細胞の浸潤現はれ、移植體は次第に萎縮し總て不成功に終る。扱て從來同種移植が不成功に終る理由を尋ねるに、移植體は1種の異種蛋白として作用し、従つて生體内に徐々に而も止る事なく生ずる抗體の出現により終には死滅吸収せらるゝとなす説あり。此抗體出現の時期と淋巴細胞浸潤の時期とは、時間的に甚だ良く一致し、同種移植不成功の原因と、淋巴細胞浸潤とが密接不可分の關係にある事を知る。従つて若し此淋巴細胞の浸潤を阻止するを得ば同種移植に於ても、自家移植と同様成功を來し得る理なり。此處に於て注目すべきは幼若動物より取りたる移植體は成熟動物より取りたる移植體より其の成績よき事實あり。即ち移植體として生活力旺盛なるものを選べば、同種移植に於ても、他の例に比し成績よきものとせば、尙ほ進んで移植體を刺激し、發育を促進せしむる如き何等かの操作を加ふれば、移植體は抗體の作用に抗し、より良き成績を得べき理なり。従つて

余は同種移植を成功に導かんには、其處に何等かの人工的探作を加へざる可らざる事を思考するに至れり。余は以上の見解に基き、骨折を行ふ場合上皮小體は増殖と機能充進とを來す事實を利用し、移植と同時に大腿骨の骨折を行ひ其の結果を検したるに、同種移植に於ても自家移植と同様完全に成功し、其の生着率甚だ良く、又移植後2箇月を経るも、全く健全なる組織像を呈し、淋巴細胞の浸潤なき事を證明したり。即ち同種移植を成功に導かんには、其の移植體に對し、特殊の刺激を與ふる事必要にして、此方法により現今成功不可能とされたる同種移植に於ても、成功の方途發見し得べきを確信するものなり。

14を終りて注意 石山 教授

此學會は教室内の學會であるから遠慮なく申しますが「エヒヂアスコープ」に出てくる顯微鏡寫眞は不鮮明で、爲によく注意して見て居るが尙ほ演者の指す所の核心がよくわからない。従つて折角の仕事も興味が索然とします。寧ろ「ネガ」で供覽した方がよく分る様に思ふ。此點は他の學會に於ける顯微鏡寫眞と比較して改良すべきであると感ずる。向後教室員諸氏の注意を喚起したいと思ひます。

15. 肋水、腹水竝に紫外線照射血液輸血

の實驗的研究 杉山 俊之(教室)

缺席。

16. 術後急性肺虚脱の生成機轉に關する

實驗的竝に臨牀的研究

野間 安則(教室)

術後急性肺虚脱の内氣管枝内、粘液閉塞とか或は横隔膜痙攣などとは全然異り原因不明のものが存在してゐる。余等は之に對し便宜上特發性肺虚脱と云ふ名を與へてをる。從來此所謂特發性肺虚脱の生成機轉に關し或は反射性氣管枝痙攣説を説

き或は血管運動神經障礙説等を唱へるものがあつて議論は極めて區々である。私は主として末梢の方より此問題を解決せんとして未知の領域に入つたのである。1936年には Duval et Binet 兩氏が手術後より發生する Polypeptide の中毒に基因すると言ふ新説を出して益々原因論は混沌として來た。茲に供覧する瀨戸丸某と言ふ患者は全く原因不明の術後急性肺虚脱を惹起したが此症例は既に石山教授が第39回日本外科學會にて宿題報告中に追發型として述べられたものである。私は此症例の原因を闡明しようとして猫を用ひ「フィゾスチグミン」を注射して迷走神經緊張状態にしてより約30分後に右上腿骨折を惹起させ爾後1時間間隔にて對kg 0.5 mgの同液を皮下に注入したところ6時間後には下肺葉の一部は含氣量減少し將に完全虚脱に陥らんとした。又此實驗例とは反對に骨折後「フィゾスチグミン」を1時間間隔にて對kg 0.5 mgの割に注射して4時間後に左上葉及び心臓葉とが完全に虚脱に陥つた例を経験した。猫に於ては體重對kg 0.5 mg「フィゾスチグミン」を注射せば注射後2時間に互り「ワゴトニー」の状態にあることを知つた。又猫に骨折を起さすと血中「ヒヨリン」體の増加することをも亦生物學的に證明することが出來た。余は以上の實驗事實より次の如く結論する次第である。患者が迷走神經興奮状態にある際手術的操作により更に迷走神經の興奮は増強せらるることとなり茲に氣管枝の反射性攣縮による肺胞收縮が成立するものと思ふ。斯くの如き急性肺虚脱の生成機轉も亦存在するものと思ふ。

### 17. 手術後靜脈血栓

上村良一(玉造船)

患者は高藤某、27歳の經産婦。體格榮養共に佳良なる婦人にして蟲様突起炎早期手術を施行す。蟲様突起は右卵巣内に穿孔せるを以て右卵巣も共に切除せり。爾後第5日目、發熱37度餘、右肺の

肺炎を惹起せり。術後第7日目に至り惡心、食慾不振、下腹部不快感等増惡し、翌8日目よりは右足背より下腿にかけて浮腫を認め、且腓腸筋部の疼痛を訴へ翌日に至るや下肢全體に浮腫を來し、腓腸筋部、膝關節位に鼠蹊部に疼痛を訴へ、脈搏90を上下せり。右腸骨靜脈血栓の診斷の下に副木、濕布、下肢の高舉を行ひ、經口的に沃度加里を、又「ウロトロプロカノン」、「ゲリゾン」の注射を行ひたり。之により術後22日目に右下肢の症状は消退し25日目に退院せり。本症例に於ける血栓形成の因子を考案するに、患者は術後2日目より月經あり。之により骨盤腔内鬱血、且術後常に便秘せる事、又手術時局所を機械的に刺戟せる事、並に蟲様突起炎を惹起せる細菌の作用と相俟ちて生じたるものなるべしと思惟せらる。之を要するに結核の遺傳又は之に罹患せりとも思はれざる若年者に、而も右側下肢に來れる靜脈血栓の1例なり。

### 17の追加 丸山正熊(徳山)

2例の同種患者を追加す。第1例は27歳、女にして左腓腸筋部の筋間膿瘍手術をなし、術後肺炎の經過中に左下肢にあらはれたり。本例は3年前肋膜炎に罹れり。第2例は22歳の女が3年前骨盤「カリユス」の手術を受けたりと云ふに突然左下肢の靜脈血栓症を起せるものなり。

### 18. 閉塞性虚脱肺の結核菌に對する抵抗

に就て 井爪昌和(教室)

演者は1側氣管枝閉塞によつて招來される急性虚脱肺は結核菌に對して如何なる抵抗を有するものなりや、或は結核肺に對して本症を惹起せしむれば該肺臓の結核病竈に對して如何なる變化を招來せしむるものなりやを實驗的に研究せるに、閉塞性虚脱肺は結核菌に對して甚だしき抵抗を有し又結核肺に閉塞性虚脱肺を惹起せしむれば結核病竈を治癒せしむる傾向あるを知りたり。然れども

之を臨牀的に應用するは猶ほ幾多の困難あり、即ち氣管枝閉塞によつて來る氣管枝腔内瀦留物の排出不可能なる事竝に胸腔内壓陰壓増強によつて招來さる縦隔竇動搖により重篤なる症狀を呈するを以てなり、之等の障碍を何等かの方法にて除去するを得ば將來肺結核の治療法として期待し得るならんと述べたり。

### 19. 外傷性脾臓壊死の手術治験例

杉 野 佐 助 (教室)  
藤 野 博 儀

患者は20歳、某高工生徒、昭和13年9月13日自動車のため左側胸腹部に大衝撃を受け一時人事不省に陥りたり。直ちに某醫院に收容され、5日目に某組合病院に轉院、専ら非手術的療法を續行され同年11月18日一先づ同病院を退院、同月24日當教授に紹介され、外科的診療を乞ひたるものなり。家族歴既往症に認むべきものなし。患者の體格中等榮養稍々不良、呼吸器、循環器、神經系統等其の他主訴たる腹部腫瘍以外に特記すべきことなし。左側上腹部軽度に膨隆し、左側肋骨弓下に大人手拳大の腫瘍を觸知す。稍々壓痛あり。種々なる検査殊に「トロトラスト」靜脈内注射による肝脾撮影法により、脾腫なることを確認し、11月30日即ち受傷後87日目に石山教授御執刀脾手術を施行す。剔出脾の精査により脾被膜下實質内に内容約50ccの囊腫存在し、顯微鏡検査により壊死を證明せり。元來脾臓外傷は急激の経過をとるものにして1日以内の死亡は86.5%なりといふ。又外傷後の脾臓壊死は稀有なるものの如く大正元以來本邦文獻に掲載されたる脾臓皮下損傷55例中に1例もなし。演者等の例は外傷後87日の長期経過の後剔脾手術を施し、幸にして全治せるものにして而も、脾實質内に外傷時の損傷を誘因とせる壊死を證明せる極めて興味ある症例なり。

### 20. 腎臓囊腫の1例

松 尾 節 司 (金 浦)

腎臓の疾患を思はず症狀を呈したる腎臓囊腫の

1例を報告せり。患者は59歳の女にして發作性上腹部疼痛を主訴として來れり。發作時黃疸、嘔吐、發熱等なし。腹部を觸診するに右肋骨下縁に大人手拳大の堅い塊を觸れるも壓痛は殆どなし。疼痛の状態、胃液の状態より膽汁鬱滞の疑ひを以て閉腹するに右腎臓上極に近く生じたる囊腫なるを知れり。組織標本は大部分纖維性結締織より成り。其の中に血管、細尿管、絲毬體等を認めたり。囊腫の内容は約100ccの透明黃色の比重1.012の液なり。本疾患は非常に診斷困難にして種々の症狀を現はし來るを以て右上腹部の疼痛、消化困難等を起し、膈嚢に變化を認めず又他に原因の求められざる際は一應考慮の價値ありと信ず。

### 20の追加 大 杉 眞 造 (高 梁)

高田某と云ふ65歳の老女に發生せる右側腎臓囊腫の1例を経験す。腎臓摘出後腹壁は一時的に縫合し、後腹膜に「ドレーン」を挿入し排膿し、30日後全治せしめたり。本症は右輸尿管結石による輸尿管閉塞より腎臓水腫續發し腎臓膿瘍を惹起せるものなり。

### 20の追加の追加 藤 河 武 應 (奥 清 生 會)

腎膿瘍の2例、1例は膀胱鏡検査の結果輸尿管の閉塞により、初め腎水腫を惹起し更に腎膿瘍を形成せるものならん。一次的に腎摘出を行ひ1箇月にして全治。他の1例は膀胱鏡検査の結果は輸尿管の閉塞はなく膿の排泄あり、「インヂゴカルミン」注射試験によるに患側腎よりの色素排泄はない。近日中摘出の豫定なり。

### 21. 肺循環に關する實驗補遺

徳 毛 卓 三 (周 桑)

演者は肺循環特に虚脱肺の流血量に關しては既に日本外科學會に於て追加發表せる處なり、而して演者は各種虚脱肺に於ける流血量を測定し之等實驗的根據に基き肺虚脱に於ける左右肺流血量に於ては早期にありては胸腔内壓の變動は流血量増

減に大なる影響を及ぼすものなることを主張したり、然るに最近京都府立醫科大學來須助教は胸腔内壓の變動は何等現象量に變化を與へるものに非ず肺臓縮小現象を以て流血量減少するものなりと述べ演者の成績と相反したる結果を報告したり。依て演者は直ちに同氏等の方法によりて之れが追試實驗を行ひたるに演者の方法によりて得たる成績と大略同様なる成績を得たり。此處に於て同氏等の成績を詳細に檢するに幾多の疑義を有する點あり、後日大いに追究する處あるべし。

## 22. 急性肺虚脱時に於ける肺毒の本態に 關する實驗的研究

關 寅太郎(佐野)

急性肺炎患時に於ける肺毒の本態に關して報告せるものなし。余は急性肺虚脱時に於ては肺毒力は正常時の夫れよりも増強する事實を知り得たれば其の本態に關し報告す。肺毒は加熱(攝氏100度20分間煮沸)により影響せらるる事比較的尠し。急性肺虚脱(葱湯後5時間)15倍水浸液に於ては加熱前最小致死量「マウス」毎12gに對し0.07cc絶対致死量0.09ccなるも加熱後最小致死量0.09cc絶対致死量0.1ccとなる。即ち肺毒の大部分は耐熱性水溶性物質なり。又「ヒヨリン」は之を種々なる重金鹽類に10%鹽化白金水溶液、昇汞「アルコール」飽和溶液並に Stanek 氏液と結合せしめ、肺毒中結晶學的檢索に基き其の存在を肯定す。然し乍ら其の藥理學的諸作用を見るに「ヒヨリン」以外に多量の有毒成分が含有せられ其の主體をなすを認む。其の諸作用は「ヒスタミン」の有する特異作用に一致せり。即ち該肺水浸には血壓降下平滑筋收縮の2大作用あり。豫め「硫酸アトロピン」p.K. 0.1 mgを投與せる猶血壓を0.2ccの微量を以てしても尙ほ良く血壓降下作用を認め又迷走神經纖維皆無なるべき海狼の直腸を收縮せしむ、且海狼の處女子宮には收縮的に作用し、「ラツテ」の夫れには弛緩的に作用する特

異作用を認めたり。尙ほ「アドレナリン」に對する拮抗作用「ヒスタミンナーゼ」により非働性變化の促進せらるる事實を證明し、該肺水浸の大部分は「ヒスタミン」様物質にして「ヒヨリン」又は酵素様物質は其の1小有毒成分を構成するものと思惟さるる成績を得たるを報告す。

## 23. 距骨骨折に就て

奥田浩三(三原)

演者は比較的稀なる左距骨骨折を経験し之が大要を報告す。患者は電氣工夫にして、作業中電柱より墜落し、腰に差したる「ネズ廻し」が左足關節部に刺さる。直ちに附近工場病院にて治療を受け中途より轉醫し來る。然るに割創が治癒しても歩行し得ず、レントゲン寫眞を撮り初めて骨折を知る。骨折の發見が後れたるが爲め整復に困難を感じたり。此原因は先醫がレントゲン寫眞撮影に際し腓脛方向の検査をなさざりしが爲め骨折の發見が後れしなり。又他方健康保險法の不完全も大いに關係ありしを附言せり。

## 23の追加 坂井芳次郎(富山)

外傷後半年に亙り存する右足關節部の疼痛を訴ふる27歳位の男子に於てレントゲンにより1米粒大の骨片の存在を知り手術に依り切除、疼痛の消失せるを追加せり。

## 23の追加 上村良一(玉造船)

患者。藤原某、22歳。主訴。歩行不能、右大腿上部並に右足關節の疼痛。病歴。就業中高さ5間餘の所より「コンクリート」床上に墜落し受傷せるものなり。病名。右足關節脱臼並に右距骨骨折。經過。脱關節脱臼は直ちに全身麻痺にて整復副木、冷濕布を行ひ旬日にして腫脹疼痛消失せるに其の後足關節部の疼痛を訴へ、初めは副木の影響と考へしが、あまりに疼痛甚しきを以てレントゲン検査を行ふに距骨は前頭面に平行に其の中央にて骨折せるを見たり。依て其の轉移なきを以て「ギプス」

固定繃帯1箇月を行ひ、目下「ゴム」の「サポータ」をつけて杖なくして歩行しつつあるも尙ほ幾分の疼痛は存在するもの如し。

#### 24. 急性徽毒性關節炎の1例

吉田 晝一(徳島)

演者は最近初期硬結と左側坐骨神經痛を有せる患者に對し「ネオサルバルサン」, 蒼鉛の第1回注射後4日にして右肩關節炎に次いで2日目にして左膝關節炎を發し弛張性の高熱を有する患者に遵合し、「ザリチール酸」劑の持續的投與も寸效なく、次第に瘦悴し來りたる者に蒼鉛單獨注射數回により熱も漸次下降し、全身症狀快方に向ひたるを以て、現在も驅微療法を續行中なる1例を報告せり。本患者は尙ほ機能障害を残せるを以て治療中なり。尙ほ此種疾患の急性症狀の稀なる事を力説せり。

#### 24の追加 坂井芳次郎(富山)

數年來稍々多數の徽毒性關節炎の而も急性型なるものの經驗に基き同業者のより深き注意觀察により更に其の症例の多かるべきを注意せり。

#### 25. 榊原氏瞬間消毒法追試

丸山正熊(徳山)

「フォルマリン・アルコール」(Edward Borchrs氏法)手術野消毒法は昭和11年2月より實施して有難き成績を擧げて居る。榊原氏による同劑による手術者手指消毒法は昭和13年5月より追試した。器械消毒も全く同氏法に依て居る。而して同年12月末日迄、即ち8箇月間に同氏法による成績は次の如くである。1. 腹部無腐手術33例中手術創の化膿せるもの(二次感染)1例もなし。糸糸による皮膚縫合化膿1回あるのみ。2. 爾他部の無腐手術に於ても亦然り。3. 有腐手術中一部皮膚縫合の成績も亦極めて佳良なり。右を従來行ひたるグロツシツヒ氏法にフュールプリンゲル氏法に比すれば格段の相違あるを認む。若し夫れ術者の時間的節約並に燃料節約等の方面より考察する

時は正に劃期的の進歩と云ふを憚らず。余は手術野消毒液は「ピクリン酸」を以て着色す。手指消毒が1日2回以上になる時は榊原氏法の「カメレオン」中和に更に過酸化水素水の脱色法を加味す。又器械は液より出して之を滅菌水中にて1度洗ひて用ふ。是れ液の惡臭並に刺戟を避けんが爲めなり。其の滅菌水とは今既に不用となれるシンメルブツシュ氏煮沸器に早朝1回だけ沸かし置けるものなり。而も此水は終日種々の用途あり。

#### 25の追加及び質問

立花岩吉(岡山)

私も榊原氏「ホルマリン」瞬間消毒法を數箇月來患者の皮膚の消毒及び術者の手指の消毒に實行致して居りますが成績は非常に良好にて1日數回5%「ホルマリン・アルコール」を手指に塗布するも濕疹等を生ぜず。但し機械の消毒に用ゆる「ホルマリン水」は丸山氏は同一の液を幾日使用せらるるや。無菌の場合も有菌の時も同一の「ホルマリン水」に浸し、5分間に消毒充分なりや。

#### 25の質問の答 丸山正熊

手指消毒に用ひたる「フォルマリン・アルコールガーゼ」を器械消毒用壺内に都度投入し置けば藥液の稀薄となるを防ぎ得。器械浸漬時間は5分以上とす。従つて本液は長期間(半年)使用に堪ゆ。

#### 25の質問 上村良一(玉追船)

過酸化水素で手を洗ふと言はれたが%は如何に。

#### 25の質問の答 丸山正熊

過酸化水素水は三共の「オキシフル」原液を用ゆ。

#### 25の追加 榊原亨(岡山)

外科消毒に使用する酒精を「エチールアルコール」を使用せずして「メチールアルコール」を使用すると費用が非常に安價である。私は近來盡く「メ

チールアルコール」を使用して居ます。従つて私の原法の「エチールアルコール」を「メチールアルコール」を以て代用出来る事を追加致します。

### 25の追加 石山 教授

此種原氏消毒法は軍陣外科に於て殊に必要な方法であると思はれる。私の立場として一言申上げて置きたい事は現在我々の行つてをる消毒法はMilzbrandを目標としてをる關係から少しく嚴重にやり過ぎてをる點がある。然しながら在局中の者と開業醫の諸君にては自ら其の間に差別があるべきだと思はれるのでありまして、在局者は先づ正規の方法を習得し、體得し、然る後に時に臨んで簡便の法を使用する様にして貰ひたいと思ふ。斯る立場から私の教室では先づ完全なる正規の消毒法を實施して居る次第である。

### 26. 胃筋腫の1例 鶴身 孝雄(高知)

32歳の男子にして胃潰瘍穿孔患者に發見せる胃筋腫の1例を報告す。胃筋腫は其の發育頗る緩徐なるため、従つて其の臨牀症狀少なく、多くは晩期に發見せらるるものにして現今尙ほ病理解剖學的にも興味あるものなり。筋腫は滑平筋腫と決定す。組織診斷を賜はれる岡山醫科大學病理學教室助教濱崎先生に衷心謝意を表す。

### 27. 兎唇手術私見 大杉 眞造(高梁)

兎唇第三度、口蓋破裂を伴ふものは從來の手術法にては減張充分ならずして不成功例多数なり。演者はレーン氏骨接合板を上口唇に横に用ひ、從來のミロー氏法を行へる後、更に其の約半mm程外方に絹糸にて減張縫合を1本行ひ、夫れを前記接合板にて支へ、上口唇の縫合部離断を防ぎ、減張の目的を達し完全に治癒せしめたる生後40日の狼口男子の1例を報告す。

### 27の追加 榊原 亨(岡山)

口腔手術の縫合に銀線を使用するとよいことは

よく判つてをるが夫れが堅くて困る事が多い。此場合岡山醫科大學耳鼻科教室でやつて居られる様に銀線を薬灰で焼くとやはらかくなつて糸の様になる。

### 26,27の追加 石山 教授

共に興味ある必要な症例である。斯る症例は簡單でよいから臨牀雜誌上に投稿掲載する様にして欲しいと思ひます。文献を澤山調査し引用すると書くのが難しくなるでせうから、あまり文献を調べなくとも簡単に2—3頁でも宜しいから一般に發表して貰うと非常に益する所が多い事と思はれる。尙ほ文献も亦御中越しがあれば必要なだけ教室の方で調査も致します。

### 28. イ) 開放性胃潰瘍穿孔性腹膜炎時一次的切除治験3例

#### ロ) 外傷に依る左季肋下部腸管皮下脱出例の「X」寫眞供覽

小田 源太郎(大阪)

イ) 開放性胃潰瘍穿孔による腹膜炎時一次的に胃切除術を行つた3治験例を報告した。

ロ) 4歳少女、左季肋部打撲後に左前胸部に腫脹を生じた、是は臨牀上明かに腸管の皮下に脱出せる症狀を呈せり。壓迫繃帯を行ひて治癒せり。其のレントゲン寫眞を供覽した。

### 28の追加 榊原 亨(岡山)

手術後胃鬱滞に更に胃管「カテーテル」を挿入する事は患者を苦しめる。之を防止する爲めに次の方法を案出した。即ち手術時胃管「カテーテル」中に十二指腸「ゾンデ」を挿入して胃中に入れ、上腹部に於て胃に小切開を加へて十二指腸「ゾンデ」のみを固定して胃管「カテーテル」のみを抜去し、十二指腸「ゾンデ」を胃壁に縫合糸を以て固定する。すれば十二指腸「ゾンデ」によつて常に胃内容は口外に流出し、又十二指腸「ゾンデ」は固定されて居るから吐出する事はない、不要になつたら固定縫合糸を除去すれば十二指腸「ゾンデ」は抜ける。

## 29. イ) 腹腔内異物の運命に就て

## ロ) 關節鼠 中山一彦(福岡)

人體内の異物として頭蓋内異物其他食道内、  
氣管内、胃腸管内等屢々遭遇するものであるが始  
めより腹腔内異物として存在し、本人が全然異物  
の存在を認知せず而も重篤なる結果を招來した本  
例の如きは稀有であらう。患者は37歳の婦人、  
生來著患を知らず、一昨年5月子宮筋腫の病名  
の下に某婦人科醫にて子宮切除術を受け、其の後  
腹痛に悩み排便の不規則を來し、遂に「イレウス」  
病状を來すに至れり。レントゲン検査に依り「コッ  
ヘル」止血鉗子が腹腔内に存在する事明かとなり、  
而も開腹術により之が一方の柄部はS字狀腸管内  
に、一方の柄部は小腸管内に陥入し居れる珍稀な  
る例に就き報告し我々外科醫も常に戒心すべき事  
を強調せり。

ロ) 關節鼠の1例を報告す。

## 29イ)の追加 鶴身孝雄(高知)

16歳の少女が誤つて20數本の縫針を嚥下し、  
而も通院療法にて芋食にて全治せる1例を追加す  
(針供覽)。

## 29イ)の追加 渡邊傳二(神戸市赤)

25歳の男子にて3年前急性肺炎の診断の下に  
手術され、幸に治癒せしも其の後絶えず腹部の不  
快感を訴へ、最近は右下腹部の疼痛も蠕動不穩を  
認むるに至る。診るに右下腹部は膨滿し、壓痛あ  
り。腹腔内に手拳大の腫瘍を見る。開腹するに迴  
盲部に於て大網膜、小腸、大腸の相互に癒着して  
成れる腫瘍あり。順次剝離するに中心に「ガーゼ」  
あり。即ち前手術によりて遺残されし「ガーゼ」な  
り。斯る症例に遭遇し又は文献に接する毎に手術  
は「速」に拘はらず注意深くなすを要すること  
を痛感す。

## 29の追加 石山教授

針を嚥下した際は芋をよく喰べさせる。芋の無

い時には繊維の多い葱、「コンニャク」を喰べさせ  
ると繊維にまかれて針が出てくる。尚ほ嚥下され  
た針は胃の中に於て既に尖端がOralseiteに向ひ、  
鈍端がAnalseiteに向つてをる。之はレ線検査に  
よつて知られる。

## 30. 打撲性乳糜胸に就て

## 藤河武雄(奥津生會)

肋膜腔内に乳糜性漏出物の滯溜する疾患を乳糜  
胸と云ふ。40歳男子、2週間前左胸部に打撲を受  
け、以來胸部の鈍痛を訴ふ。體温は37度1分の微  
熱あるのみにして呼吸困難其の他の著明なる症  
状なし。12回の穿刺にて全治せり。穿刺液は帶黄  
白色の不透明液にして顯微鏡的には同大の脂肪球  
よりなる。血球其の他の細胞を見ず。本症の原因  
として外傷性原因及び乳糜管の流通障害を來す様  
な縦隔竇の腫瘍及び原因不明の場合あり。穿刺液  
は其の性状により乳糜性、乳糜様性、假性乳糜性  
に分類す。乳糜性とは純粹なる乳糜にして同大の  
脂肪球よりなる。乳糜様性とは大小不同の脂肪に  
して其の他血球、脂肪變性細胞、新生物細胞を見  
る。假性乳糜性とは外見は乳糜様なるも脂肪に非  
ずして他の有機性物質よりなる。

## 30の質問 上村良一(玉造船)

1. 外傷後幾日目にレ線検査をなされましたか。
2. 透視検査をなされましたか、心臟影は反對側  
に偏在しましたか。

## 30の質問の答 藤河武雄

1. 2週間目。2. 寫眞のみ、左側に起りたるも心  
臟影の壓排はさほどに認められず。

## 31. 穿透性腹部射創の手術經驗

## 西田實雄(横須賀)

缺席。

## 32. 蟲様突起炎と誤診せる「メツケル」氏

## 憩室に就て 日域旭丸(廣島)

缺席。

## 番外1. 腸閉塞症の1異型

吉田美壽利(丸龜)

演者は36歳の農婦が5年前に受けたる手術の廻腸横行結腸の断々吻合の廻腸側に於ける腸管の鉛筆大に縮小、壞疽によりて起れる「イレウス」の一治験例に就て述べ、腸吻合に當り注意すべき事を附言せり。

## 番外1の追加 小野哲二(津山)

38歳の女にして6回目の分娩後2箇月にして突然腹痛を起し、漸次疼痛は増強し下腹部に腫瘍を現す。日を逐ふて嘔吐を發來し、排便なし。鼓腸著からず。重湯1日300cc位は採取し得、之を超過するときは嘔吐を催す。腹鳴、痙痛は次第に頻發す。依て腸閉塞症の診断の下に開腹術を行ふ。初發より46日目なり。廻腸中部に於て一部腸壁は子宮底に硬き癒着を現せり。依て之を剝離す。其の上部30cmの部に手拳大の腸重疊を起せり。未だ壞疽に到らざるにより其の部の腸壁に6cmの縦切開を加へ還納せしめ後縫合す。其の他に新生せる炎症性の腸管膠着ありしものを整理し術を終る。術後25日にして普通食を攝り得るに至り全治せる1例を追加す。

## 番外2. 臨牀瑣談 坂井芳次郎(富山)

演者は開業7年間に於ける2,3興味ありと思考せられし症例に就て報告せり。即ち、

- 1) 27歳の男子。數人の醫師より均しく淋毒性右膝關節炎と診定され約3箇月に亙り注射其他の治療を受けたるも治癒せざりしものに血液ワ氏反應強陽性なるを知り驅微療法により全治せり。
- 2) 63歳の男子。演者並に他の醫師2名に均しく右肩胛關節「ロイマチス」並に右上膊神經痛として約1年間に亙り加療されたり。然るに一般症狀日と共に悪く全身浮腫、不整脈を來し死の一步前にあるの状態たるに至りワ氏反應陽性なるに驅微療法を施行し現在は殆ど全治を思はしむる状態に立

至れり。3) 17年前に入りし鉛筆の芯により恰も左膝關節の「ロイマチス」様症狀を呈せるものにレ線検査により其の存在を知り手術的に摘出全治せり。4) 53歳の男子。一定間隔を以て起る上腹部疼痛發作の激しきものに十二指腸横行部に軽度の癒着を認め、胃切除、パルフォア・ブラウン氏の手術施行、蟲様突起内、數箇の糞石を單に盲腸内に排出せしめたり。此患者は術後約1箇月半頃より再び軽度の上腹部疼痛を訴へたり。而も術後潰瘍を起したりと思考せらるる點毫もなき事より恐らく蟲様突起の異常に長さ糞石の更に發生せしによるものならん。5) 7歳の男子、外傷後に廣汎なる淺き肉芽面に母親より材料を採りてチー・ルシュ氏移植術を施行、順調に經過し小兒膝蓋骨大位の肉芽面に更に同移植術を施行せし所却て前の植皮せる部分までも淡雪の太陽に溶ける如く消失せり。之恐らく第2回目の植皮が1週以上の日數を経て後行はれしに由るものならんか。

## 33. 非穿孔性膽汁性腹膜炎の1例

小田敬造(井原)

演者は本症の39歳の男子に突然發生し而も急性穿孔性蟲様突起炎と誤診せる1例を報告せり。本症はClairmont u. Haberor (1911)の發表せる以來比較的屢々遭遇せらるる疾病にして、其の原因に關しては諸説歸一する所なき重篤にして豫後一般に不良なる疾病なり。治療法としても諸家の實施せるところも亦一定せず、演者の考ふる所に依れば速かに膽汁の排泄を計り、二次的に膽囊及び膽道領域を精査し妥當なる處置を施すを以て生命の安全を保證するに如かずと信ずと述べたり。

## 34. 神戸附近大水害時(昭和13年7月)に於ける受傷者に就て

渡邊傳二(神戸)  
土井健男(日赤)

未曾有の大水害に當り演者等は救急作業の第一

線に活躍し多数の負傷者を處置せり。其の中重傷者58名に就き詳述せり。下肢の受傷者最も多く半数以上を占め、頭部の重傷、胸腹腔臓器の損傷者等は1例も見ざりき。之等器管の重傷者は救護班の助けを待つ間もなく濁水に流され溺死せしものと考へらる。又破傷風の患者は1例も發生せざりき。創傷に對しては創面に多量の土砂を介入せるが爲め、先づ「リバノール液」を用ひて大體之を洗滌し、更に周緣皮膚は沃丁消毒を行ひ、「ナルカイン」の傳達麻酔を行つて創面の處置に際し無痛ならしむ。斯くて再び「リバノール液」を用ひて完全に洗滌し、次いで「オキシフル」を用ひて充分に創面を清潔ならしむ。創縁は「アンフリツシエン」し「タンボン」を挿入して一部縫合し、又は「オキシフル」濕布を行ふ。然し縫合せるものも局所の急性炎症のため翌日既に抜糸し、創面を完全に開放しなければならぬもの多し。一般に化膿、「フレグモネ」の進行甚だ速なり。58例中4例(7%)は瓦斯蜂窩織炎を起せり。之等に對しては數箇所にて高位切開を行ひ、「マーキユロクロム」の塗布、「オキシフル」の濕布を行ひ、「アゾ」色素剤の注射を行ふ。交通杜絶のため瓦斯壞疽血清を入手し得ざりしは残念なりき。3例は救助し得たるも1例は死亡せり(但し高位切斷は行はざりき)。尙ほ救護作業は平素より訓練さるるに非ざれば時に臨み充分の機能を發揮し難く、各地方に依り一定の命令系統に屬せしめ、統制をとりおくの要あることを述べ。

### 35. 血友病の1例 新 藤 輝 雄(山 口)

演者は22歳の女に來れる血友病の1例に就て報告す。家族歴は不明なるも既往症及び現症(頑固なる齒齦出血、血液像等)より血友病と診斷せり。種々止血治療法を講じたるも、就中「ビタミン」C剤の注射により著效を認めたり。

### 36. 術と骨工 榊 原 亨(岡 山)

所謂「コツ」には術其のものに於ける「コツ」即ち

手際一呼吸とも云ふべきものと、骨即ち作戦、策とも云ふべきTaktikに相當する「コツ」とがある。後者は術以外の「コツ」であつて即ちTechnikに對するTaktikである。如何に鮮なる術を施すとも其の患者が死亡するならば其の醫師はにTechnik於て勝利を占めたがTaktikに於て敗れたと云ふ事が出来る。即ち臨牀經驗に於ける此Taktikに屬する2-3の例を詳述する。パセドウ氏病手術前後に於けるTaktik、股關節部手術方針に對するTaktik、骨折、異物、腸重疊症、「イレウヘ」外傷等諸疾患に於けるTaktikに就き述べる。

## 37. 昭和13年を顧みて

石山 福二郎

昨年度は前半は宿題報告の爲め、後半は其の縮括りの爲め教室諸兄に多大の時間を割愛して頂き御禮申し上げます。其の爲め各自の仕事の進捗上支障を來し相濟まぬ事でありませぬ。殊に秋に臨牀外科學會にて共同研究題目として「手術の社會的適應症」につき主演致しました關係上一層御迷惑を懸けました事を御詫び致します。昨年度も多數の應召者を戦地に送り誠に御同慶に堪えませぬ。夫等の關係上學位受領者は出ませんでした。が本年度は2-3提出準備の整つた人がありますので學位受領者を出し得ると存じます。昨年度の開かれました大きな學會を見ますと、この紀念會學術講演會を「トップ」と致しまして6つあります。2月に岡山醫學會、4月に外科學會及び整形外科學會、5月に中國四國外科集談會、11月に臨牀外科學會及び中國四國外科集談會が夫れであります。之等の中、岡山醫學會を除きまして他は全部外科専門家のみの集りであります。是につきまして考へべき事は之等の學會をして、も少し内科方面と密接なる聯絡を保てる學會にしては如何であるかと云ふ事でありませぬ。現在外科方面の學會は概ね外科醫同士の主張でありますから其の療法上我田引水的の、獨善的の説を吐きましても、異なる

面からの批判を聞くわけに参りません。夫故に、所謂内外境域疾患などでも外科醫同士なら異議なく話は纏るのでありますが、もし経験ある内科の専門家が居て意見が伺へれば我々外科醫としては随分参考にもなり、考へ直しもすべき問題が多々ある事と考へて居ります。現在外科醫の缺點とすべきは何と云つても内科的療法知識の缺乏にあるのでありますから、絶えず内科の経験家と接觸を保ちつつ進めば、治療成績は更に一段の飛躍をする事と存じます。差詰め各地の集談會又は臨牀外科學會(本年より外科醫會)はそうした方面を開拓すべき使命をもつて居るのではないでせうか。昨年度の共同研究題目たる「内外境域疾患手術に対する社會的適應症」なる問題も私としては、内科方面の御意見を聞くべき希望を持つて居たのであります。宿題直後準備が整はず其の意を満す事の出来なかつたのを遺憾と存じて居ります。昨年學會にて名古屋の齋藤教授より内科、神經科、外科を聯合せる腦、脊髄外科學會創立の内意を承はり至極結構と存じて居りましたが其の後如何になりましたでせうか。次に教室の業績につきましては肺虚脱はまだ研究を續行して居ります。胸廓呼吸運動描寫につきましては横山氏の器械による呼吸曲線分析完成し、同氏は出征しましたが其の後藤本氏は更に3次元的分析法により異なる方面から研究を企てました。其の緒につき第1篇を東京醫事新誌に發表しまして直後は亦應召致し中絶せるを遺憾と存じて居りますが、最近陸軍病院にてこの方面の研究盛んになり、同氏も引き続き研究を續けて居るのを喜んで居ます。其の他審査前の諸氏業績は唯今申し述べません。次ぎに私は當教室へ赴任後故泉教授の殘されて纏め得ざりし業績を數多く見ました。先人の業績を其のまま引きつゞけるのは容易ではありませんが、其の中に臨牀方面の1つとして小兒脊髄麻痺に對する椎弓切除術が研究の途中にありましたので甚だ興味を感じ是を

追試して見ました。始めは幼兒に對し聊か大膽なる試みと考へたのでありますが、其の後之等の患者に「ミエログラフィー」を行ふて見ると、多數症例に其の長時停滯を認めます。そこでこの部位に對して椎弓切除を行ひますと必ずそこに纖維素性の癒着を認め又浮腫があります。是を丁寧に剝離掃除し硬膜を比較的粗に縫合して経過を見ますに大變よいのがあります。現在65%程の輕快又は全治率を示して居ります。是を發表當時若原博士から幼兒に對する椎弓切除の身長發育に對する影響の討論、又東教授から幼兒に對する脊髄液流出の危險に對する質問がありました。よつて前者に對しては術後3年以上の全治者につき活動寫眞により、織田氏より、後者につきては實驗と臨牀成績により丸山博士から、夫々敢て恐るべきでないと言ふ事を再び學會で報告承認を得ました。此方法については、其の危險を危惧せる爲めか、又は手術を過大視せる爲めか、他の方面からの追試者が餘りない様であります。然し本法に對する有力なる批判として曾て「臨牀の日本」の座談會に於て某氏の聊か危險視せる質問に對して東大高木教授は「癒着せる部分を掃除するのであるから異議はない」と申され、又最近慶應の前田教授は「早期に於ける脊髄及び被膜の浮腫性腫脹を認め晚期に於て脊髄膜の癒着を認める以上同氏等の意見は合理的である。而も比較的早期に手術を行ふ事によつて2次的病變を減少せしめ得る事も首肯出来る。」と批判して居られます。斯く専門諸家から其の合理性を認められつつありますので、今後漸次追試者の増加と共に其の成績も向上する事と存じ私としては丁度故泉教授の7回忌に當りまして是を靈前に報告し得るのを諸兄と共に喜ぶ次第であります。其の他の諸業績等につきましては先程より諸氏により報告されて居りますので又時間も大分遅くなりましたから省略し更に1年の精進を誓ひまして學術講演會を終りたいと存じます。